

作文部門  
最優秀賞

「未来の印刷」  
増村 咲和さん  
(小4)

未来の印刷  
伏見台小 四年 増村 咲和  
わたしは「印刷」は便利なものだと思います。何回も同じことを書く必要がないし、そのまま用途に役に立っているからです。身近なものだとせん伝のチラシや教科書もノートも本も印刷物です。そして商品のビニール袋にもいろいろ印刷してあるし、今、この場所から辺りを見回しても私は印刷してあるものに囲まれているので、印刷は私たちの暮らしにはなくてはならない物になっています。現在、私たちの身のまわりには紙やプラスチックや布、いろいろな素材に印刷したものがたくさんあり、色もすこくカラフルで写真まできれいにできます。素材の形も平たい物とはかぎらず、たとえば人が手書きでシヤークペンの側面のような丸い部分、曲面などに字や絵をかくのは大変なのに、らくらく印刷できているのはすごいと思います。でも、いくつもの素材に印刷できるとい

ても、今ではまだ形のない物には印刷できません。もし、形のない空気に印刷できたら、かさばらないしギヤまともなりません。ふつうに通りぬけられます。お店のせん伝機道のまんな中の何も無いところに大量にできます。紙もいりません。紙代もかからないです。いらなくなると、大時、紙だとくちやくちやにりてゴミになってしまいうけ空気だとそうい機とかです。ゴミも減るのでゴミもへらせてエコだし、人の手間も場所もとらずかなり便利です。その空気印刷が可能になれば、それを応用して紙や物に直せフイックでかかなくても、印刷した空気をのせるかほるかすれば、不要になつたとき空気をけを油してちかう印刷をのせれば本体をすてる必要がありません。つまりプリントなどの内容だけを新しくして紙はそのままだでも使えます。とてもかんきょうにやさしい印刷だと思います。

世界中でチラシや週刊誌やかん板など印刷物も少なくない。そして、たれめさみとしてし、分されるもの山のようにあるはず。そのなかで、こみへらすことで自然を守ることかできたらいいなと思。たのて未来の印刷は空気印刷を思いつきました。他にも便利できれいな印刷かふえてほしいです。

【審査員コメント】

空気という見ることも触ることもできないモノに印刷する、まさしく自由な発想から生まれた作品でした。エコについて真剣に考えているだけでなく、道の真ん中に空気の印刷物が浮かんでいる楽しい光景には、大人の我々も「未来にはどれだけ素敵な印刷物が生まれてくるのだろうか！」とワクワクしてしまいました。

株式会社日本印刷新聞社 柏海

【審査員コメント】

社会的な視点がしっかり入っていて完成度が高いと思いました。「未来の印刷は、福祉に力を入れていたらいいと思います」という提言は、まさにCSR活動にも通じます。「しゃべった言葉が印刷される機械」や「マンガを投入すると世界の言葉や点字などで複製される機械」はユニバーサルデザインそのものです。

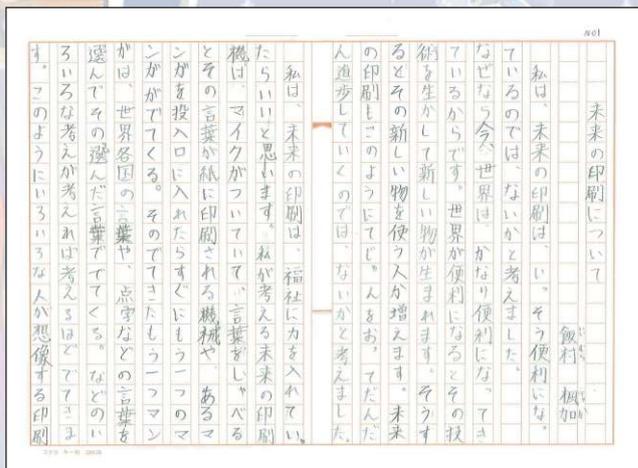
株式会社印刷出版研究所 金澤克明

作文部門  
優秀賞

「未来の印刷について」

飯村 楓加さん

(小5)



【審査員コメント】

小説でもエッセイでも、導入文は重要です。特に作文のような短い文章では、最初で読者の興味をそそることができるかどうかが決まります。この作品は、応募の中でも特段に「つかみ」に魅力があります。絵に描いた物が実物になって出てくるといふ発想に止まらず、自分が絵の中に入り込んで行きたいところに行かれるというところまで広げているのも魅力です。「印刷」という概念を変えてくれる作品です。

全日本印刷工業組合連合会会長 島村博之

全印工連賞

「何でもできる不思議な紙」

青木 里奈さん

(小3)

